

こころのキヤッチボール ～想いをつなぐ～



あすわ地域生活支援センターには、障がいのある方のグループホームが12カ所あります。

各グループホームに世話人と呼ばれるパート職員が配置され、全体では34名の世話人がいます。

業務内容としては、利用者の方の身の回りの支援や食事の準備などが主な仕事です。

今回は、グループホームひだまりの世話人の櫻川美智枝さんに仕事を始めたきっかけや、やりがいなどをインタビューしました。仕事に対する思いをご紹介します。

しかし、利用者の方の中には、小遣い帳の確認や整理整頓、相談ができずに悩みを抱えてしまうなど支援が必要な方もいらっしゃるので、日々ひだまりの世話人4名が、利用者の方の話を聴いたり食事の準備をしたりなどさまざまな支援を行っています。

利用者の方は概ね身の回りのことができる方がほとんどで、ふだんはそれぞれの職場に公共交通機関を利用して、送迎バスや徒步などで通勤したりしています。そして休日は、映画や買い物などに出かけたりして過ごされています。

平成26年6月に女性のグループホームとして開所し、現在2ユニットの6名と2名の合計8名の利用者の方が生活しています。

**グループホーム
ひだまりとは？**

インタビュー

世話人の一人の櫻川さん
にインタビューしました。



として暖かく、家庭的なグループホームにしたい』とい
うセンター長の思いを聞いて
とても感動しました。

Q. 仕事で喜びを感じる
ことはなんですか?

A. 利用者の方の成長
が見られたときで
す。仕事始めは、利用者の方
も心を開いてくれず話もし
てくれなかつたのが、今では
大きな声でいさつをして
くれたり、日ごろの話をたく
さんしてくれたりするのが
とてもうれしいです。ある利
用者の方は、今年4月から
新しい利用者の方が入居さ
れたことで、お姉さんとして
いろいろと気にかけている姿
を見ると、成長したなとう
れしくなります。

担当していると考えています。つ
まり『こころのキヤツチボー
ル』が大切で、利用者の方と職
員とをつなぐ架け橋のような
存在になつていただきたいです。

世話人研修

世話人はふだん、各グループ
ホームでの一人勤務が多く
ともたくさんあり、かかわり
方について悩むことも多いよ
うです。

世話人は、利用者の方との信頼
関係を作るために心
がけていることはありますか?



このために年4回世話人
研修を行い、各世話人のレベ
ルアップや情報共有、交流の
場としています。

研修内容としては、感染症
対策や虐待防止などについて
考えたり話し合ったりして、
真剣に取り組んでいます。

さらに世話人は利用者の
方の思いを職員に伝える役
割も担っています。小さな
変化に気づくということ
は、日々の業務の中でも、利用
者の方を知ろうとかかわつ
てくださっているからだと
思います。

世話人は、利用者の方との会話や表情
などから、その方の思いや悩
みをキヤツチして話を聞き、
思いを職員へ伝える役割を
担つていると考えています。つ
まり『こころのキヤツチボー
ル』が大切で、利用者の方と職
員とをつなぐ架け橋のような
存在になつていただきたいです。

A. 友人に世話人の話
があつたのですが、友
人が私の方が向いていると
紹介したことがきっかけで
す。家族が福祉に携わってい
たこともあり抵抗はありま
せんでしたが、最初は自信が
なく、仕事ができるか不安で
した。しかし、まずは体験を
ということで頑張ってみよ
うと話を受けました。

Q. 目指す
世話人像は?

A. 世話人は、利用者
の方との会話や表情
などから、その方の思いや悩
みをキヤツチして話を聞き、
思いを職員へ伝える役割を
もしているので、家族の一員
は、外で嫌な思いや辛い思
いを職員へ伝える役割を



A. 利用者の方・世話人・職
員が互いに「こころの
キヤツチボール」でつなが
り、利用者の方に満足して
いただけるよう今後も世話
の方と協力して支援して
いきたいです。

生活支援員副主任
柳生 郁子